

2025.11.11

Q: 上期における『JARVIS どうぶつ医療センターTokyo』の先行費用および開業後の通期見通しの変化について伺いたい。

A: 設備投資に係る減価償却費の計上は、開業した第 3 四半期以降となる。上期は獣医師・看護師等の雇用および教育・訓練に係る人件費が先行して発生した。費用全体は計画線上で推移しており、当初想定していた 10 億円の損失見通しに変更はない。収益面では、足元想定を上回って進捗している状況。今後、『JARVIS どうぶつ医療センターTokyo』に係る数値計画を提示したいと考えている。

Q: 新規ビジネスに関して、シムネット、健康イノベーション、動物病院以外の事業の収益性が改善しているように見える。その背景について伺いたい。

A: ブリーディング事業を運営しているフローエンスの収益性が改善してきていることが主因。

Q: ESR(経済価値ベースのソルベンシー比率)適用後の余剰資本の活用方針および自己株式取得の追加枠設定の可能性について伺いたい。

A: 具体的な余剰資本の金額および活用方針は 2025 年度の決算発表以降に開示予定。余剰が生じた場合、可能な限り自己株式の取得や配当で株主還元を行いたいと考えている。

Q: 『JARVIS どうぶつ医療センターTokyo』について、将来的に約 40 億円規模の売上を見込んでいるとの発言があった。現在の体制や設備でその水準の売上規模は実現可能か。また、達成に向けた具体的な見通しがあれば伺いたい。

A: 足元の売上水準は年商換算で 1 億円程度だが、来院経路や顧客属性を分析した統計データを基に周知を進めることで、年商 40 億円規模への拡大が見込めると考えている。施設としてはまだ十分な余力があり、目標達成のために追加投資が必要となる可能性はあるものの、収益構造や損益の見通しが明確なため、リスクの低い投資で対応可能である。『JARVIS どうぶつ医療センターTokyo』では、動物医療分野で初となる先進的な手術支援ロボットを導入しており、この技術的優位性を活かし、さらなる成長を実現したいと考えている。